

定時制

定時制の現状について
P.8で解説

生徒の入学動機、学習歴、学びの特性を理解し、安全・安心な学習の場をつくる

宮城県・仙台市立仙台大志高校

宮城県・仙台市立仙台大志高校は、昼夜2部制で単位制の定時制高校だ。同校の生徒の入学動機や学習歴、高校での学習の目的や希望する生活スタイルは多様であることから、同校は生徒一人ひとりのニーズに添えつつも、自ら考え、行動し、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

地域貢献活動を通じて、生徒の自己肯定感を高める

仙台大志高校はI部（授業時間帯は朝から夕方まで）、II部（授業時間帯は昼休み後から夜間まで）を設置。学年の区別がない単位制を採用している。入学した生徒の中には、就業等の理由で全日制高校を選ばなかった生徒もいるが、近年は多くの定時制高校同様、全日制高校を中途退学した生徒や、中学校時代に不登校を経験した生徒が増えている。「生徒の入学動機や学習歴は多様だが、すべての生徒に自分の将来を実現する力を育むことが本校の使命」と山田善弘校長は語る。

宮城県・仙台市立仙台大志高校は、昼夜2部制で単位制の定時制高校だ。同校の生徒の入学動機や学習歴、高校での学習の目的や希望する生活スタイルは多様であることから、同校は生徒一人ひとりのニーズに添えつつも、自ら考え、行動し、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

づくりを学ぶことを目的とした地域貢献活動だ。その1つが、自治会（生徒会）が企画・運営する「GTCカルチャ」という文化交流事業で、教師や自治会の生徒と、同校が所在する仙台市宮城野区の五輪地区町内会が協働し、紅花染めや水引による小物作り、災害対策講座、ヨガ講座などを、2015年度から実施している。24年度はドローンを使った親子教室を開催した（P.14写真1）。

人たちは生徒を応援してくれていますが。そのため、生徒はやりがいを持って活動に取り組んでいますし、自分ごとのような社会貢献ができるかを考えることで、「自己肯定感を高めることができているようです」（山田校長）

多様な入学動機や学習歴を持つ生徒に向き合う同校の教師には、生徒一人ひとりの個性や特性、ニーズを見取りながら授業を行うことが求められる。「ブランドデザインに『誰もが活躍できる学校』を掲げる本校の教師は、様々な配慮や工夫をしながら授業を行っています。私が授業を見学する中で

全員参加の研修で教師が学ぶ安全・安心な学習環境づくり

それらを特に感じるのは、心情的な支援の面です。自己肯定感が高まるよう、小さな成長も見逃さずに褒め、間違った答えや言葉足らずの意見について



教頭
橋本正裕
はしもと・まさひろ
同校に赴任して2年目。



教頭
板橋俊文
いたばし・としふみ
同校に赴任して1年目。



校長
山田善弘
やまだ・よしひろ
同校に赴任して2年目。

も、『なぜ、そう思ったのか』と投げかけ、生徒が考える材料とすることで、そうしたつまづきを思考力やコミュニケーション能力を育む機会にしています。また、入学前に不登校を経験した生徒が少なくないため、『分かっているよね』『習ったよね』といった前提で授業をしないようにしている点にも配慮が感じられます」(山田校長)

ほかにも、『聞く・書く・話す』など、複数の活動を並行して取り組むことが苦手な生徒に配慮する「ノートを書くのが苦手な生徒のために、ICTやプリントを効果的に活用する」といった工夫が行われている。

授業改善を組織的に進めるため、特

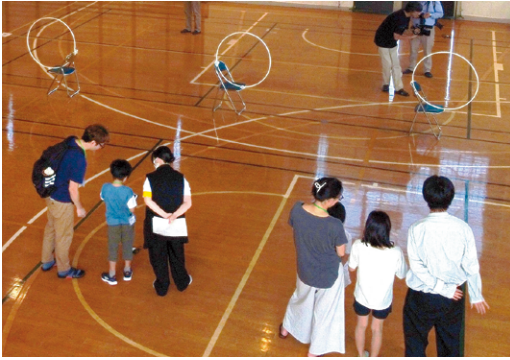


写真1 地域の小・中学生とその保護者を対象に、自治会が企画・運営した公開講座「親子ドローン教室」。

別支援教育などの専門家を招いた全教対象の校内研修を実施している。

「24年度は、公認心理師を講師に招き、ユニバーサルデザインの観点から、生徒が学習に集中しやすい掲示の仕方や座席配置、生徒への情報伝達の工夫などについて学びました。研修のポイントはプリントにまとめ、非常勤講師にも共有しました。開講科目数が多い本校では、学校が一体となって授業改善を進めることが重要です」(橋本正裕教頭)

山田校長は互見授業を強く推奨しており、教師間での授業公開は少なくとも年に一度は行うよう、教師に求めているという。



写真2 地域の清掃活動も自治会による地域貢献活動の一つ。地域住民に同活動の説明を行った後、約1時間、清掃を行った。

多様な背景を持つ生徒を 教師全員で理解する

一人ひとりの生徒を理解することを目的に、毎年4月に実施しているのが「生徒を知る会」だ。特に、特性上の課題を抱え、指導上、特別な配慮が必要な生徒に関する情報は、非常勤講師も含めて共有するようにしている。

「中学校からの申し送りや入学前相談会で保護者から寄せられた相談などを基に、『この生徒に声をかける際には、こんなことに気をつけてほしい』『授業でペアをつくる時には、こういう生徒と一緒にした方がよい』などと、具体的なかつ詳細な情報を共有しています。『高1ギャップ』を生じさせないための、重要な取り組みになっています」(橋本教頭)

「どの高校にも、それぞれの困り事を抱えながら登校している生徒はいるはず。社会全体で不登校の生徒が増加する中、一人ひとりが安心して学べる学校をつくるためには、本校のよきな生徒理解が今後一層必要になると思います」(板橋俊文教頭)

同校に赴任した教師の多くが、中学校で不登校だった生徒が学校復帰を果たす様子を驚くという。

『社会のルールが学校のルール』で

学校概要

設立 2009(平成21)年
形態 定時制/普通科(単位制)/共学
生徒数 一部・二部約230人
2023年度卒業生進路実績 4年制大は、東北学院大、東北生活文化大、東北文化学園大に延べ3人が合格。短大・専修学校等進学22人。就職33人。

ある本校には、始業・終業チャームがありませんが、遅刻は厳禁ですし、9回欠席すると、単位を修得することができなくなります。そういった点では、全日制の高校以上に自己管理が求められます。それでも、不登校から学校復帰する生徒が多くいます」(板橋教頭)

山田校長は、「小さな成功体験を教師が認めるからこそ、生徒の中に学校での時間を大切にしようという気持ちが湧き、自己管理の意欲が生まれるのではないかと考えている。

「誰もが活躍できる学校になるためには、すべての生徒が、自分が活躍できる場所を学校の中に見つけられることが欠かせません。安心して学校生活を送れるからこそ、夢や目標を持てるようになり、それが基本的な生活習慣の確立や自立・自律の気持ちにつながるのではないのでしょうか。入学直後は困り事を抱えていた生徒が、時間とともに落ち着いていく様子を見て、私は心からそう思っています」(山田校長)

在校生に聞く

定時制高校を選んだ理由、 得られた学びと成長

自治会に所属し、G Tカルチャーを始めとする地域貢献活動に取り組む5人の生徒に、高校選択と高校生活について聞いた。



左から、末永さん、吉川さん、田中さん、枝村さん、斎藤さん

- 1 仙台大志高校を志望した理由を教えてください。
- 2 仙台大志高校で学んだこと、成長できたことを教えてください。



I部3年生
吉川晴夏さん

1 中学3年生の1月まで進路が未決定だった私は、知り合いから仙台大志高校のことを教えてもらいました。細かい校則が存在せず、社会のルールが学校のルールであること、アルバイトを応援してくれることなどが、それまで全日制の高校しか知らなかった私にはとても魅力的な学校に思えました。

2 細かい校則がない分、自己管理が求められる高校生活を送ってきました。先生方も日々、自己管理の大切さを口にされています。どの授業を選択し、どんな高校生活にしたいのか、自分で考え、決める経験ができたことは、自分の将来にきっと生きると思っています。また、自治会長として地域貢献活動を企画・運営し、たくさんの学びを得ました。



I部2年生
田中優菜さん

1 中学2年生で不登校になり、勉強についていくことも、将来を考えることも難しくなりました。そんな時、中学校の先生から、「いろいろな事情を抱えながら学ぼうとする人を受け入れてくれる学校だよ」と、仙台大志高校を紹介してもらいました。時間割次第で午後から登校できるため、無理なく学校に通えそうと思いました。

2 定時制の高校生活に対して少し不安もありましたが、友だちもできて、とても充実しています。G Tカルチャーや地域の清掃活動などを通して地域の人と接する中で、コミュニケーション能力が高まったと思っています。中学校を卒業する頃は無気力な私でしたが、今は将来の夢も持てて、以前の前向きな自分に戻れた気がします。



I部2年生
末永茉広さん

1 中学生の頃の私は、学校も勉強も嫌いで、人とかわることも苦手でした。でも、この学校の卒業生から「面白い学校だよ」と聞いて、進学することにしました。時間割を自分で作ることができるという、大学のような雰囲気があるところや、アルバイトも大切な経験として先生方が応援してくれるところも気に入りました。

2 個性豊かで、中学校時代までにそれぞれいろいろな経験をしてきた人たちと一緒に学ぶことで、柔軟性が高まっていった気がします。G Tカルチャーで地域の人と接する中で、自分はずきあいは得意ではないけれど、決して人が嫌いなわけでもないし、楽しいことならどんどん人とやってみたいということに気づきました。



I部2年生
枝村永遠さん

1 髪の毛の色を好きな色に染めることで、自分を思う存分表現してみたかったので、校則が厳しくない高校を探していたところ、「社会のルールが学校のルール」というこの学校を見つけました。自分の興味・関心を基に、自分で時間割が組むことができることも魅力的だと思いました。

2 仙台大志高校に入学して、同じ高校生であっても、それぞれ様々な経験をしてきて今があるのだと思いました。相手のことを少し知って、そして相手にも少し自分のことを伝えて、そうして時間をかけて、互いに理解し合いながら人間関係は築いていけるということを学びました。高校卒業後の進路のことも考えて、髪の毛の色は黒に戻しました。



I部2年生
斎藤真麻さん

1 家庭の経済的な事情から、高校在学中にアルバイトをする必要がありました。そのため、アルバイトを応援してくれて、時間割を自分で作ることができるこの高校を選びました。定時制のことをよく知らなかったので、人間関係がうまくいか心配だったのですが、入学してみると、みんな接しやすい人ばかりでした。

2 仙台大志高校の先生方は、いつも親身に私のいろいろな相談に乗ってくれますし、尊敬できる先輩もできました。また、私は人とコミュニケーションを取ることが苦手なのですが、地域の清掃活動などを通じて地域の人たちとかわっていく中で、苦手意識も大分なくなってきたと思っています。